



平成25年度助成事業

ケアメン・グループの発掘とネットワーク化を実現！

団体名：男性介護者と支援者の全国ネットワーク

事業名：「ケアメン☆サミット JAPAN の開催」事業

助成テーマ：高齢者や障害児・者などが地域で普通の暮らしをすることを支援する事業

助成区分：全国的・広域的ネットワーク活動支援事業

助成金額：6,000千円

ここに注目

◆全国の男性介護者に呼びかけ集結し、男性という新しい介護者の知恵と経験を集約・交流しています。このような同じ立場にある者同士による語り合いと居場所づくりの活動は、孤立を防ぎ、虐待など介護に伴う事件の予防につながるとして期待されます。

事業の背景

◆2010年版国民生活基礎調査によれば、男性の介護者は3割を占め、100万人を超えています。介護や家事にも不慣れで戸惑う人が圧倒的に多いと言われ、地域との交流も希薄なことから、孤立化が危惧されています。そのため、介護心中や殺人、虐待など介護に伴う事件の加害者になる男性介護者も後を絶たず、男性の介護者の孤立防止や有効な支援策の開発が急務な課題となっています。男性介護者のグループ化やノウハウの蓄積は十分でなく、当事者はもちろん、支援する行政や支援機関も試行錯誤が続いています。

◆そこで助成事業では、各地で活動している「ケアメン・グループ（男性介護者組織）」の知恵と経験を集約・交流の場を通して、社会の共有財産として蓄積し、全国に広げて男性介護者のみならず全ての家族介護者の福祉向上に寄与することを目指してこの事業に取り組みました。

事業概要

◆「ケアメン☆サミット JAPAN」を開催し、全国各地で活動を行う50を超える「ケアメン・グループ」を対象に、関係者が一堂に会し、交流を深めました。サミットの開催が実りあるものになるように、男性介護者やその家族支援者を対象に、九州や東京など地域ブロックでイベントを行い全国サミットに備えました。

◆その中で、全国に広がっているケアメン・グループについて、その数や取り組みの内容、活動発展のために求められていることは何か等、これらの実態を明らかにしつつ、交流とネットワークを図っていくことを目的として、ケアメン・グループの調査を実施し、100団体のリストと44団体のプロフィールシートを作成しました。

◆「ケアメン☆サミット JAPAN」を通じた全国各地の団体の活動実態や課題の共有は、男性介護者及びその家族支援者への支援方策の開発に寄与しました。併せて、男性介護者の課題に関する一大啓発イベントになり、イベントの内容は地方紙や週刊誌にも取り上げられ、多くの方が男性介護者の問題について考えるきっかけになりました。



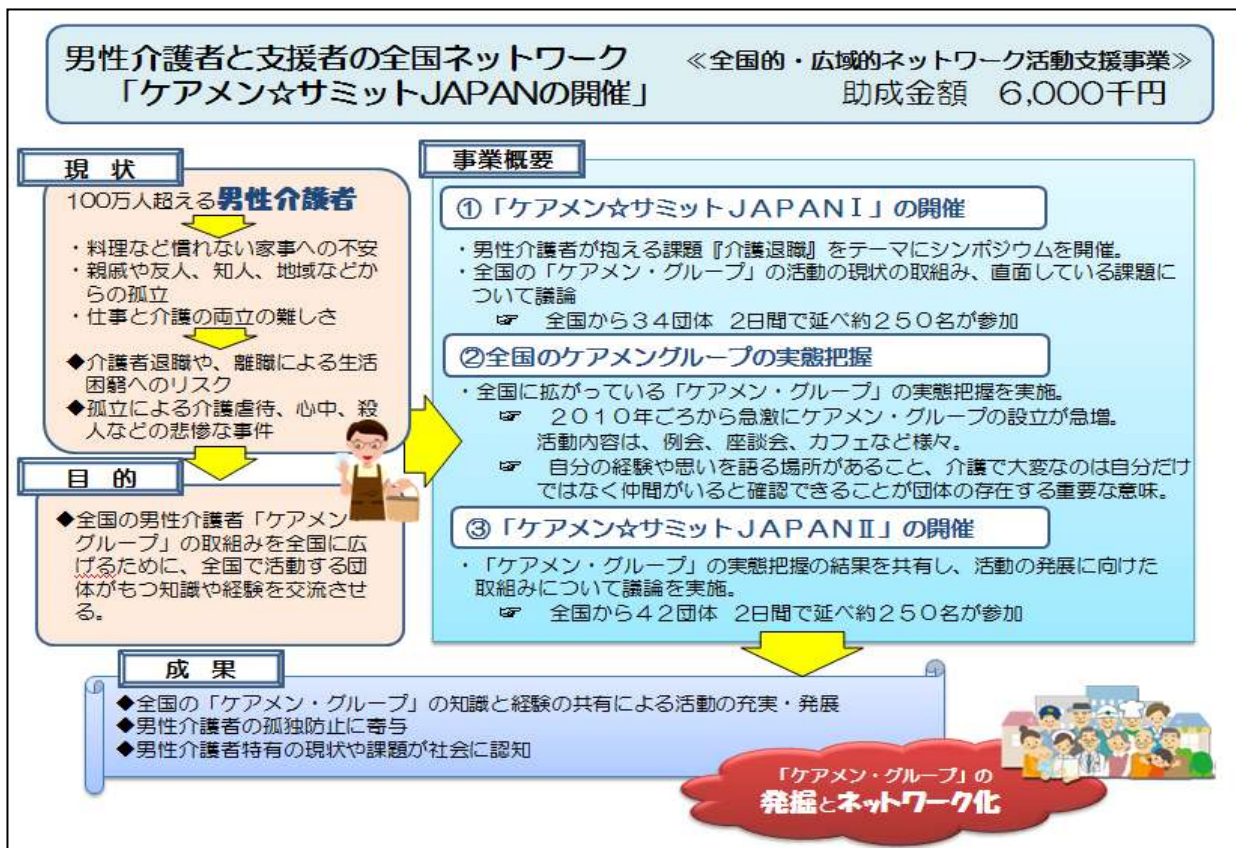
外部有識者のコメント

既に介護者の3割超を占めるに至っているにもかかわらず、女性介護を前提とした施策や長い男女役割分担の文化もあり、大変、辛い立場にある男性介護者を支える先進的で重要な活動だと評価します。

当事者グループ活動による癒しと支え合い、新たな生き方・価値観の創造が、「語る」「聴く」「教える」「教わる」過程を経て実現しています。当事者グループ創設のために英国でまとめられたテキスト"Helping you helps me"を示す典型的な展開だと言えます。

男性介護者が3割強であるのに対して、高齢者虐待の加害者の6割は男性。これは男性が暴力的であるというよりも、苦労が共有されにくく孤軍奮闘状況に追い込まれやすいがゆえの事態と考えられます。その意味で、男性介護者の当事者グループの発掘とネットワーク化を実現したことの社会的意義は極めて大きいと言えます。

なお、今年度は自己負担で実施することのことで、「WAM 助成ありき」ではない姿勢にも共感します。



成果物

- ◆平成25年度活動報告書 ◆「ケアメン☆サミット JAPAN」パンフレット
- ◆「ケアメン☆サミット JAPAN」資料集（ケアメン・グループプロフィールシート）

お問い合わせ先

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町5-6-1 立命館大学人間科学研究所気付
 男性介護者と支援者の全国ネットワーク

TEL 075-466-3306 HP アドレス：<http://dansei-kaigo.jp/>